

平成25年（2013年）3月20日発行

学位取得おめでとう

卒業生へ贈る言葉

信頼される技術者になる 3つの力



学長
波多野 純

それが深い思いを抱えた式典だと思います。その深い思いが、他人のつらさを理解する心であり、人への優しさに繋がってくれたらと願うばかりです。

本学は、「実工学教育」を掲げ、現場のプロフェクショナルを育ててきました。皆さんは、まさに今日から、実社会でその力が試される訳です。もちろん今日から完全に仕事ができる力がある訳ではありません。日々

に、現場に直結した技術力が、君に求められています。技術力と最先端の工学知識とは、必ずしも同じではありません。知識では現場の問題は解決しません。状況に応じ、さまざまな情報を統合し、問題の本質に迫る力が要求されているのです。本学の「実工学教育」により、皆さんは、その技術力を培ってきたはずで、その力を、日々の研鑽により、大きく伸ばしてください。

卒業おめでとう。本日、卒業する学生諸君のすべてが、東日本大震災を体験しています。学部卒業生は大学生活のなかばで体験しました。大学院博士前期課程修生の多くは、余震に心配しながら、スチューデントセンターで学位記を受け取った世代です。別科修了生の中には、日本への留学に反対された諸君もいると思います。親しい人を失った諸君、悲しい映像が目に見え、離れない諸君、そ

つぎに、コミュニケーション力。その現場には、昨日まで、問題を解決しようと努力してきた、現地の技術者がいるはずで、彼らとつながるには、昨日までの努力に感謝し、共に問題を解決する、相手を尊重する、真摯なコミュニケーション力です。

3番目に、予知力。最近、「想定外」と言う言葉をよく耳にします。とても違和感があります。想定外とは、事故などの危険性を予測する工学的知識や技術力が十分でなかったことを、自ら白状していることです。想定外だから責任がないのではなく、予知力、多角的な視野と経験がつかれるものです。運転免許を取得したとき、路地からポールが出てきたら、続いて子供が飛び出すと思え」と習ったはずで、前だけを見ていたら、危険は予知できません。さまざまな可能性をシミュレートする予知力を育ててください。

培った実践力を さらに大きく伸ばして



理事長
大川 陽康

この度、めでたく学位を取得された諸君、そして御家族の皆様に、衷心よりお祝いの言葉を申し上げます。

諸君は本学において、理論と実践との両面からの技術習得を果たされました。これは、本学園の創立以来の理念であり、日本工業大学の建学の精神であり、また、とりもなおさず世界に誇る日本の科学技術の一翼を担うものであります。

というべきものです。今日、日本の内外で数々の災害、事故が起こる中で、ますます価値を高めていると云ってよいでしょう。

日本の経済は明るさを予感させる動きにあります。成長の著しいアジア地域をはじめ日本の製造業の海外展開がさらに進むなど、グローバル化が留まることを知りません。グローバル化とは、その土地への現地化を果たすことで

諸君が身に付けられた現場での実践力は、様々な事態に臨機応変に対応でき、課題解決への問題意識を高め、かつ多様な手立てを立てる事ができる力など、多くの強みがあります。なかでも、目、耳、手触り、嗅覚など人間が持つセンサーの能力は、現場実践を通してこそ磨き上げることができるものであります。そうした能力は、デジタル機器とは異なる、それらが持たない人間ならではの感性

あり、その企業がいかにかに強い現場を作り上げるか、に他なりません。海外拠点の成功の可否は、まさにエンジニアの実践力が問われるところでありましょう。

諸君が本学で修得した理論と実践の強みを、将来にわたって、より強化していくには、如何にすべきか。一つ言えることは、エンジニアとしてチャレンジ精神を失わずに想定外あるいは二律背反の要求に応えるべく事

カレッジマイスター 85名誕生

カレッジマイスターエクセレント 45名
カレッジマイスタープライマリー 40名

本年度のカレッジマイスターエクセレントには次の45名が認定され、学位記授与式において学長から認定証とゴールドメダルが贈られる。カレッジマイスタープライマリーには40名が認定され、来年度4月の各学科のオリエンテーションにおいて認定証が授与される。



マイコン応用回路工房

口正敬、田口直樹
モノリチデザイン工房(2名)
島方啓輔、野瀬俊宏
ロボット創造工房(5名)
佐々木源、川口翔、竹内大二郎、寺内響一、古橋吉祥
マイクロ・ナノ工房(8名)

型技術工房(3名)
駒込寛紀、佐々木悠、松橋貴弘
フォーミュラ工房(4名)
小野寺星子、木原駿介、関和也
2x4木造建築工房(5名)
王大地、鍛冶裕太、木次貴寛、津田泰樹、平野秀一
インテリア工房(6名)
野口正男、秋山和樹、坂部孝紀、中島秀斗、根津昇太、三宅由紀恵

物理体感工房(3名)
越川温士、原口寿章、渡邊健介
フィジカルコンピュータ工房(3名)
増田悦久、山道春輝、渡辺孝弘
ものづくり入門工房(34名)
飯塚卓也、他33名

技術経営(MOT)大学院が 変わる？

専門職大学院だより

この4月で開学以来9年目を迎える技術経営(MOT)大学院にかなりの変化が生ずることが予想される。

もちろん変わらない点はあるものの、平成25年度以降の大学院の姿は従来のそれとは違ったものになりそうだ。

まずはカリキュラムの大幅な変更である。従来のカリキュラムは8年前の開学時に策定されたものを基本的に、逐次改訂が加えられてきたが、これからは、来年度から施行される新カリキュラムは、専任教授による策定委員会が昨年以來推蔽を重ねて策定したものであり、あるべきMOT教

育のあり方を反映したものになっている。基本的には従来の授業科目を統廃合しつつ、縦軸に、コース系経営共通系、知識・スキル系の3系統を、横軸には基礎、応用、ケーススタディの順に各主要科目を配置したのにならっているが、例えば「サブライチェーン」、「事業承継」関連など従来のカリキュラムではカバーされていなかった科目が新設されるなど、科目が選択する際に迷わずにすむ、分かりやすい配列になっている。

従来の60近くあった科目数が10科目ほど整理・減少されることに伴い、従来学生に不評であった「ダブルト

ラック」問題(同一授業時間帯に二つの科目が並行実施される弊害)が一気に解消されるのも新カリキュラムの大きな特長である。

平成24年度末をもって開学以来教鞭をとっていた3人の専任教員が定年を迎えて退任し、新たに就任する先生方と交替する。これによりティーチングスタッフに新しい、若い力が加わることとなる。

しかしすべてが変わるわけではない。「1年制」というのが大学院最大の特徴はそのまま堅持される。開学時には色々と取りざたされたこの制度も今やしっかりと定着し、その効果や利点が明

わが大学院にとって、変わることも大切であるが、変わらぬことも同じように大切である、というわけである。

(副研究科長 宇野永紘)

らかになるにつれて、当初は疑問視していた他校関係者の中にも「1年制」の導入を検討している向きがあるやに仄聞するまでになった。

現行の「新事業創造・起業コース」が「起業・第二創業コース」に名称変更されるものの従来の3コース制の立て付けに変わりは無い。

本大学院のユニークな特色である「中堅・中小企業にフォーカスした実学重視のMOTスクール」という姿勢・理念は依然としてそのままであるものの、開学9年目にして、わが大学院の言わば、「第二創業期」を迎えることになる。

平成
二十四年度
卒業生一覧
3月20日付
確定者

早期卒業

機械工学科

ものづくり環境学科

創造システム工学科

電気電子工学科

情報工学科

平成24年度学長賞

●平成24年度「学長賞(学部生・大学院生)」受賞者

	学科 / 専攻	氏 名	出身校
学部	機械工学科		
	ものづくり環境学科		
	創造システム工学科		
	電気電子工学科		
	情報工学科		
建築学科			
生活環境デザイン学科			
大学院	機械工学専攻		
	建築学専攻		

先の選考委員会を経て、平成24年度の学長賞が決定した。本賞は、毎年優秀な卒業生に対し授与されるものであり、今年度は左記の一覧表の通り、大学院生3名、学部生15名が受賞した。

建築学科

生活環境デザイン学科

日本工業大学付属、東京工業高等学校は、平成20年4月から日本工業大学駒場高等学校に改名しています。

大学院工学研究科修了生

●博士前期課程

●博士後期課程

大学院技術経営研究科修了生
(予定)

●専門職学位課程

◎富代キャンパス学位記授与式

3月20日(水)

◎神田キャンパス学位記授与式

3月23日(土)

環境特別講演会 佐藤教授「宮代町のごみ問題」を語る



佐藤茂夫教授

1月19日(土)、本学学友会が「宮代町のごみ問題」をテーマに開催された。本講演会は本学の環境教育と一般普及の目的で開催するものである。講師に本学ものづくり環境学科教授の佐藤茂夫氏を迎え、学生・教職員を中心に一般を含めて150名近くの参加者があった。

波多野学長の挨拶、本学の環境教育の概要紹介に引き続き講演が行われた。佐藤氏は元来専門の材料工学に加え、環境問題、特に廃棄物の処理や再利用が専門で、本学の環境教育・研究に多大の貢献をしている。地元と歩んだゴミ処理場に関する内容を軸とした講演は、環境問題の社会・工学・人間など多岐に渡る連関の複雑さを実感させるもので、質疑応答も活発であった。

就職支援情報

平成25年3月卒業予定の学生による就職活動が12月1日(土)にスタートし、3カ月あまりが経過した。本学では企業の動きに合わせると同時に、学生への意識づけとして12月に2日間、2月に7日間、計240社を招き「学内合同企業説明会を実施した。真新しいスーツに身を固め、真剣な眼差しで説明を聞く学生は、普段の様子からは想像もできないほどの

博士号取得おめでとうございます



日本非破壊検査協会 新進賞を受賞

機械工学専攻博士前期課程1年(梅崎研究室)の岡野聖君が1月23日(水)、日本非破壊検査協会より、30歳以下の優秀な研究発表者に贈られる「新進賞」を受賞した。受賞論文題目は「紫外線硬化樹脂の硬化過程における流動と応力の同時測定装置の構築」。硬化過程の紫外線硬化樹脂に生じる、好ましくない応力と樹脂の収縮(流動)の関係を調べる際、本研究により、それらの同時測定が可能となり、樹脂に生じる応力と流動の関係をより詳しく検討できるようになった。岡野君は「賞をいただけて大変嬉しい。ご指導をいただいた梅崎教授と先輩方に感謝したい」と述べている。

学生自治会代表と波多野学長の 第11回懇親昼食会を開催

1月24日(木)、恒例となっている学長と学生自治会代表との懇親昼食会が開催された。今回は波多野学長と竹内学生支援部長、鈴木学生支援課主任と各委員会の委員長6名、体育会会長及び文化団体連合会会長が出席した。



本会では、各学生の自己紹介や日頃感じていること、また、委員会やクラブ活動などについての学長の考え等、気兼ねのない話し合いがおこなわれた。最後に、学長から「学長室には気軽に来てもらいたい」との言葉があり、終始和やかな雰囲気の懇親昼食会であった。



ガウンを着用した村上市長とタッチディスプレイ

専門職大学院現役院生より ガウンなどの寄贈を受ける

専門職大学院では昨春秋、(株)マイテック(府中市)よりタッチディスプレイ寄贈の申し出を受け、平成24年9月に現物の搬入が完了、801教室にて既に授業に活用されている。従来型の映像設備に比べ、スクリーンへの投影が無くてすむこと、画面の拡大表示が容易であることなど、学習環境の改善に大いに役立っている。

また1月には、同社の村上市長(現役8期生)よりアカデミック・ガウン(帽子付26着が寄贈された。アカデミック・ガウンについては従来、一部の院生のみが着用していたが、院生の間には予てより着用を希望する声が強かったこともあり、このほど寄贈に繋がったものである。本年度学位記授与式では、晴れて修了生全員がガウン着用で式に臨むこととなった。

留学生別科 7名が修了



合同企業説明会で担当者の説明に聞き入る学生

3月1日(金)、留学生別科の平成24年度春季修了証書授与式が、学友会館にて執り行われた。中国や台湾からの留学生7人が式に臨み、学部や大学院など、それぞれの進路に向けて旅立ちの時を迎えた。多くの関係者に見守られながら式は進行し、波多野学長から激励の告辞を受けた学生たちは希望を胸に抱き、各々の目標への決意を新たにした。

天満宮 例祭



学長から修了証書を授与される別科修了生

本年も日本工業大学天満宮例祭が2月23日(土)、11時より天神門横の杜前にて厳粛に執り行われた。当日は、早咲きの梅もほのかに香る中、田川崇敬会長をはじめ役員各位、大川理事長、波多野学長以下、各事務部課長、および各学科主任、さらには学生自治会から高麗中央執行委員会委員長をはじめとする8名の幹部学生が参列した。



玉串奉奠の儀を執り行う宮司

宮司の祝詞の中、玉串奉奠などが行われ、その後、場所を移して直会が催された。本年も参列者一同が、学生諸君のより一層の学業向上と繁栄を祈念し滞りなく例祭が終了した。

人事異動

- 【定年退職】3月31日付
◆佐藤茂夫教授(ものづくり環境学科)
◆片山茂友教授(情報工学科)
◆椋田實教授(情報工学科)
◆桑原文夫教授(建築学科)
◆小笠真一郎講師(生活環境デザイン学科)
◆奥田眞助手(電気実験センター)
◆大西毅参与(学生支援部)
◆入山明美主任(学生支援課)
◆奥山隆久嘱託職員(総務部付)
◆見常忠之嘱託職員(財務課)
- 【退職】3月31日付
◆村川正夫教授(専門職大学院)
◆宇野永紘教授(専門職大学院)
◆山岡斉教授(専門職大学院)
◆鈴木清教授(ものづくり環境学科)
◆星野坦之教授(創造システム工学系)
◆石崎克也教授(共通教育系)
◆松崎浩通助手(電気実験センター)
◆草間信太郎事務職員(総務課)
- ◆鈴木清教授(ものづくり環境

国外出張

- ◆鈴木清教授(ものづくり環境

宮代町 だより

181号



1日楽しく 過ごすには？

先日、研修で「1日楽しく過ごすには？」との質問がありました。みなさんはイメージできますか？宮代町内でのこの時期に私がおすすめしたいのが「新しい村」。自然に囲まれた森の市場「結」では、町内産の穫れたて新鮮野菜や甘い和菓子が大人気。イートインコーナーや喫茶店があるので、買い物や散歩の合間に休憩できます。毎年、2月から5月上旬までイチゴ狩りができるので、家族で利用するのでもいいかも。また、田植えの時期には、川からほっけ田に水が入り、魚釣りを楽しめます。自然豊かで心やすらぐ新しい村。ぜひ、ご利用ください。

編集後記

▼卒業生諸君、学位取得おめでとうございます。御卒業にあたり、アメリカの女流小説家パール・バックが著書『書斎』で記した文を紹介したい。▼彼女は中国を題材とした多くの作品を書き、アジア人への理解を西洋人に訴えた人でもある。▼「若い人たちは自分自身で無力だと考えて失望する羽目にならぬようにしてください。まっさきに自分が無力だと考えさえしなければ、人間は誰ひの無力ではないのです。」▼自分が無力だと悲観するのは、実は青年期に特有の感受性なのさ。だが、人は社会に出て何年か経つと、いつしか「生活をする」という自信のようなものを持つようになる。これは、善悪とは別の、生きる知恵と呼んでもいいだろう。▼だからこそ、若いうちの失望はあまり心配することではない。自分を無力だと思ひ込まない限り、誰もが何かをなせるのだ。そして、誰もが「やり直せる」と未来に希望を持っていくものなのだ。女史は語りかける。▼そう！信ぜべきは未来であり自分なのだ。御健勝を祈る。【信】